

【一】(評論) 採点基準 (合計≒50点)

問一 10点

(模範解答例)

(A) B〇4点

(A・B)

A〇4点

商品は、市場の中では他の何にでも転換されうる普遍的な手段である。貨幣(お金)と等価なものであり、C〇2点

貨幣の性質が商品にも伝染するから。

■各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点を行う(A・B・Cそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

▲末尾が「から・ので・ため」など、理由を表す語になっていないものは、▲1点減点。

A 「商品」は、貨幣(お金)と等価なものである(4点)

△「商品の価値は貨幣に換算される」「商品は貨幣との対応できまる」など、「貨幣と等価」というところまでいたっていない場合、△2点。

✖ 「商品の価値は貨幣で決まる」などは不可✖。

○ 「商品は貨幣と等価交換できる」「商品が一定量のお金と等価とみなすこと」

B 「貨幣(お金)は市場の中では他の何にでも転換されうる普遍的な手段である(4点)

△「何にでも転換されうる」という要素のヌケは△2点。

△「お金は普遍的な手段」のみは△2点

C 「貨幣の性質が商品にも伝染する(2点)

△「性質が」のヌケなど、何が伝染するかがはっきりしていない場合、▲1点減点で△1点。

○Cの部分に、「貨幣」や「商品」という語が無くても、文のどこかに明記されており、全体で、「貨幣の性質が商品に伝染する」ということが文全体で読み取ればよい。

○「性質が伝染する」は「性質を帯びる」等でも可○。

△「性質が伝染する」は「性質が適用される」等は△1点。

○「お金の性質が伝染する」「貨幣の性質が対象となるもの全てに伝染する」

(模範解答例)

A〇6点

高級な規範の特定の目的が低級な市場的規範の不特定な目的の手段へと転換することによって、

B〇3点

C〇3点

前者は後者に縮め出されるのではなく、むしろ包摂され、その性質を変えてしまうこととなる。(86字)

■各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点を行う(A・B・Cそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A「高級な規範の特定の目的が低級な市場的規範の不特定な目的の手段へと転換することによって」(6点)

○「高級な規範↓特定の目的」が「低級な市場規範↓不特定な目的(の手段)」へ転換する【という内容で〇。これらの語が含まれていても、特定の目的「不特定な目的」についての説明が誤まっていたら✕0点。

△「高級な非市場的規範が市場的規範になる」のように、「特定の目的」「不特定な目的(の手段)」の要素が抜けている場合は▲2点減点。

B「前者は後者に縮め出されるのではなく」(3点)

○「前者が後者に縮め出されるというのはミスリーディングである」という内容。

○前後から、「前者」⇨「高級な規範の特定の目的」、「後者」⇨「低級な市場的規範の不特定な目的(の手段)」の内容が読み取れれば、「前者」「後者」の語は不要。Aで減点されていても、Aに2つの要素があり、その2つを指すことが読み取れれば○。

✕「前者」「後者」の語が無く、何が「縮め出されるのではない(⇨縮め出されるというのはミスリーディングである)」のか読み取れない場合は不可✕。

C「むしろ包摂され、その性質を変えてしまう」となる」(3点)

○「高級な規範の特定の目的(⇨前者)」が「低級な市場的規範の不特定な目的(の手段)」(⇨後者)」に包摂され、その性質を変えてしまう、と読み取れること。

✕「包摂される」のが、「低級な市場的規範の不特定な目的(の手段)」のように読み取れる場合は✕。

△「包摂される」の要素抜けで、単に「性質を変える(失われてしまう/変質/変容する など)」のみの場合は、▲2点減点で△1点。

○「包摂される」は「取り込まれる」のような表現でも可○。「性質を変える」は、「高級な規範の特定の目的の自体が失われてしまう」、「火K地のある目的は存在できなくなる」のような表現でも、可○。

▲末尾が「ため」「から」「ので」など不適切な場合は全体から▲1点減点。

問三 4点×2＝8点

(解答) I II 口 II II イ

問四 3点×2＝6点

(解答) 口・ホ (順不同可)

問五 4点

(解答) 普遍的な交換可能性 (完答)

問六 5点

(解答) ニ↓イ↓ハ↓口 (完答)

問七 5点

(解答) 二

二 (評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 2点×4＝8点

(解答) 1 反旗 2 痕跡 3 奨励 4 破綻

問二 3点×2＝6点

(解答) a 二 b 二

問三 12点

(模範解答例)

A 3点

産業社会への転換によって 繁榮しているように見えるが、

B 3点

C 3点

自由放任主義経済による独占と富の集中が深刻化し、社会全体に富が行き渡っていない、

D 3点

極端な格差社会となった時代。 (80字) (12点)

■形式上の不備

- ・文末表現…理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素D不可。
- ・句点の扱い…1点減点

■字数…八〇字以内 **三九字以下のものは全体不可(0点)**

■各加点要素の加点の条件

A 「産業社会への転換によって」(3点)

※社会が産業化したことについて説明していないものは、要素A加点なし ✖0点。

B 「繁栄しているように見えるが」(3点)

※産業化し繁栄をもたらしたようにみえることについて説明していないものは、要素B加点なし ✖0点。
○「一見すると反映しているが」「繁栄の陰で」などで○。

C 「自由放任主義経済による独占と富の集中が深刻化し社会全体に富が行き渡っていない」(3点)

※実は自由放任主義であったために富の偏在が生じたことについて説明していないものは、要素C加点なし ✖0点。

▲「富の集中」に触れていないもの ▲2点減点。

○「自由放任主義経済の激しい競争の背後で独占企業が富を吸い取る」「背後では自由放任主義経済によって巨大企業が富を独占している」などで○。

D 「極端な格差社会となった時代」(3点)

※要素Cのために、大きな格差があることについて説明していないものは、要素D加点なし ✖0点。

○「格差社会となった」「格差が極端に広がった歪んだ時代」「(格差などの)社会の歪みが深刻化していった時代」などで○。

※「歪んだ時代」のみでは説明不十分 ✖。

問四 4点

(模範解答例)

A ○2点

B ○2点

機会を公平にし、生産性を高めること。 (4点)

■形式上の不備

・文末表現…理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素B不可。
・句点の扱い…1点減点

■字数…二〇字以内 **九字以下のものは全体不可(0点)**

■各加点要素の加点の条件

A 「機会を公平にし」(2点)

※本文「一人一人の分け前も増加する可能性を高める」について、「一人一人の可能性を高める」を、端的にまとめて説明していないものは要素A加点なし ✖0点。

※「格差解消のため」

※「多くの人が試合に参加するべき」はアメリカ社会のあり方について説明できていないので ✖。

B 「生産性を高めること」(2点)

- ※ 「要素Aを実現するためには「生産の最大化」が必要になることを説明していないものは要素B ✖0点。

問五 12点

(模範解答例)

A ○3点

B ○3点

確かなルールと監視体制によって 民主主義の理想と資本主義による繁栄を

C ○3点

両立させることができるという信念こそが、

D ○3点

アメリカ型競技を成長させる基礎になっているという事。 (80字) (12点)

■形式上の不備

- ・文末表現…理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素B不可。
- ・句点の扱い…1点減点

■字数…八〇字以内 **三九字以下のものは全体不可(0点)**

■各加点要素の加点の条件

※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 「確かなルールと監視体制によって」(3点)

- ※本文「この信念」の内容として、「ルールと監視体制」について説明していないものは要素A加点なし ✖0点。

B 「民主主義の理想と資本主義による繁栄を」(3点)

- ※本文「この信念」の内容として、「民主主義と資本主義」について説明していないものは要素B加点なし ✖0点。
- 「民主主義の理想」は「自由」、「資本主義の繁栄」を「豊かさ」としても○。

C 「両立させることができるという信念こそが」(3点)

- ※本文「この信念」の内容として、要素Bの「両立」を説明していないものは要素C加点なし ✖0点。

D 「アメリカ型競技を成長させる基礎になっているという事」(3点)

- ※傍線部「ゆりかご」を一般化して説明していないものは要素D加点なし ✖0点。
- 「ゆりかご」の言い換えは、「成長」「育成」「普及」「発展」「基礎」「基盤」など。

問六 4点

(解答) 八

問七 4点

(解答) 人為的集團統合 (7字)

三 (古文) 採点基準 (合計50点)

問一 1点×3＝3点

(解答) a ずいじん b ぞうしき c だいら

「ポイント」

✖ いずれも正解以外は✖。

a ✖ 「ずいしん」 等

b ✖ 「ぞふしき」「ぞうしよく」 等

c ✖ 「うち」 等

問二 3点×3＝9点

(解答) X 九条殿 Y さるべき人々 Z 帝

「ポイント」

X 「九条」は△1点。「藤原師輔」は✖0点。

Y 「さるべき人・去るべき人びと」などは△2点。

Z 「内裏・天皇・村上天皇」は✖0点。

問三 3点×3＝9点

(解答) 甲 口 乙 二 丙 亦

問四 3点×2＝6点

A (解答例) 3点

A ○2点 B ○1点 (A)

お供の者は まったく 理解できなかつた。

「ポイント」

A 「お供の者は理解できなかつた。」(2点)

△ 「お供の者は理解できない・御供の人は分からない」の意があれば△1点。
○ 右の意がある上で、過去(くた)の意もあれば○2点。

B 「まったく」(1点)

○ 「まったくない」の意があれば○1点。

○ 「まったく」は、全否定になっていれば「少しも・全然」などでもよい○。

✖ 「あまり・少し・やや」などは✖。

○採点例

- 1 御供の者たちは、全く理解できなかった。(3点)
A 2 B 1 (A)
- 2 お供の人は、何があったのか、全く理解できなかった。(3点)
B 1 A 2
- 3 少しも お供の人は理解できなかった。(3点)

C (解答例) 3点

A ○1点 B ○2点
言うまでもなく、 九条殿も伺候なさって、

「ポイント」

- A 「言うまでもなく」(1点)
 ○ 「もちろん・当然」などでもよい。
 ○ 「言うまでもない」のように連用修飾の形になっていなくてもよしとする。

B 「九条殿も伺候なさって」(2点)

- 「九条殿も」の「も」は、「が・は」などになっていてもよしとする。
- ① 「九条殿も伺候する」の意があれば1点。
 ○ 「伺候する」は「お仕える・仕え申し上げる・仕える」などでもよい。「参上する」は✕。
- ② 「九条殿も」なさって」の意があれば1点。
 ○ 「」なさって」は「」ていらっしやって・お」になって」でもよい。
- ▲文末が「」て、もしくは、「」連用形」などになっていない場合は▲1点減点。
- △「伺候する」も「」なさって」もあるが、「九条殿」がない場合は△1点。

問五 6点

(解答例)

A ○1点 B ○1点 C ○1点 D ○2点 E ○1点
九条殿が、夜中に、あはれの辻で、百鬼夜行に出くわし、
半時ほど魔除けの経文を読んでやり過(こ)したこと。(6点)

「ポイント」

- A 「九条殿が」(1点)
 ○ 「九条殿一行が・九条殿とお供が」などでもよい。
- B 「夜中に」(1点)
 ○ 「夜更けに」などでもよい。
 ○ 「宮中を出た時・皇居からの返りに」などの有無は不問。

C 「あははの辻で」(1点)

○ 「東の大宮大路を南へ進んだ辺り」などの有無は不問。

D 「百鬼夜行に出くわし」(2点)

○ 「出くわし」は「遭遇し・会い」などでもよい。

△ 「百鬼夜行」は「鬼達・怪物の一团」などでもよいが、複数であることが不明な場合は△1点。

E 「半時ほど魔除けの経文を読んでやりすごした事。」(1点)

○ 「経を読んだ」の意があればよい。「読経した」など○。

○ 「半時ほど」「魔除けの」「簾を下ろし」「車を止めて」「お供を静めて」などの有無は不問。

○ 「やりすごす」の有無も不問(「〜ていた・過ごした」などでもよく、「退散させた・追っ払った」などでもよしとする)。

✖ 「半時ほどやり過ごした」などは経文を読む意がないので不可✖。

問六 6点

(解答例)

A ○3点

「生まれてくる自分の孫が皇子であるなら調六が出る」と言って賽を振ったところ、

B ○3点

「一度で調六が出たこと。」(6点)

「ポイント」

▲主語(九条殿)を書く必要はないが誤っている場合は▲1点減点とする。

✖要素Bが0点の場合は、Aは得点できない。

A 「生まれてくる自分の孫が皇子であるなら調六が出る」と言って賽を振ったところ、(3点)

① 「調六出ると言って賽を振ると」、または「調六出ると言っていたところ」の意があれば1点。

○ 「調六」は「六のぞろ目・縁起のいい目」などでもよい。

○ 「賽」は「サイコロ」などでもよい。

② 「皇子が生まれるなら」、または「生まれるのが皇子なら」、「孫が皇子なら」の意があれば2点。

○ 「皇子」は「男子」でもよい。

○ 「生まれる」は「娘のお腹にいる」でもよい。

○ 「娘のお腹の子が男ならば」などで○。

△ 「娘の」がない「お腹にいる」は▲1点減点。

○ 「自分の孫」の有無は不問。

B 「一度で調六が出たこと。」(3点)

① 「調六が出たこと」の意があれば2点。

○ 「調六」は「六のぞろ目・思ったとおりの目」などでもよい。

▲ 「六」を算用数字「6」と書いている場合は▲1点減点。

○ 「調六」の意は解答全体から読み取ればよい。

例 皇子が生まれるなら調六が出ると言って賽を振ると、一度で○その目が出たということ。

② 右の点がある上で「一度で」の意があれば、プラス1点。

(解答例)

A〇3点

九条殿が、東西の大宮大路に足を置いて北向きに内裏を抱くという、繁栄を期待させる夢を見たが、

B〇3点

女房がさぞかし股が痛かったらうと茶化したために、自身は摂政・関白になれなかったというこ
と。(9点)

C〇3点

「ポイント」

A 「九条殿が、東西の大宮大路に足を置いて北向きに内裏を抱くという、繁栄を期待させる夢を見たが」(3点)

① 「繁栄を期待させる夢を見た」意があれば、【1点】。

○ 解答全体でこの意が読み取れればよい。

✖ 「繁栄」に相当する意味がない「吉兆の夢を見た・よい夢を見た」などは✖。

○ 「繁栄」は「出世する・世を掌握する・宮中を我が物にする・摂政関白になる」などでもよい。

○ 「若い頃に」の意の有無は不問。

② 「①」の点がある上で、主語「九条殿が」があれば、プラス【1点】。

※ 「九条殿」は「藤原師輔・師輔」でもよい。

③ 「①」の点がある上で、「内裏を抱く」意があれば、プラス【1点】。

○ 「北向きに」「朱雀門の前で」の意の有無は不問。

○ 「東西の大宮大路に足を置いて」の意の有無は不問。

B 「女房がさぞかし股が痛かったらうと茶化したために」(3点)

① 「茶化した・悪く夢解き(夢占い)をした・解釈を誤った・夢の知らせを取り違える」等の意があれば【1点】。

○ 「不適当な夢解きの返答をした」「くだらない夢あわせをした」「悪く解釈された」などで○。

② 「①」の点がある上で、主語「女房が」があれば、プラス【1点】。

○ 「お付きの・そばにいた」の意の有無は不問。

③ 「①」の点がある上で、「股が痛い」の意があれば、プラス【1点】。

○ 「さぞかし」の意の有無は不問。

C 「自身は摂政・関白になれなかったということ」(3点)

① 「摂政・関白になれなかった・摂政・関白にならなかった」の意があれば【3点】。

○ 主体に関する「自分(九条殿)」や「子々孫々・子孫・一族」などの意の有無は不問。

※ 「①」の意がなく、要素A・要素Bの合計点が【0点】でない場合に限り、「期待ほどではなかった・実現しな
かった・正夢にならなかった」などは【2点】。

※ 「①」の意がなく、「出世しなかった・栄えなかった」などは【1点】

問八 1点×2＝2点

(解答) (1) イ

(2) ハ

四 漢文 50点

問一 2点×4＝8点

(解答) a おおし

b しからばすなわち

c ここをもって

d よりて

「採点のポイント」

▲歴史的仮名遣いの場合には、▲減点1点。

例 a 「おほし」 b 「しからばすなわち」

※送り仮名の不足は0点。

× b 「しかれば」は×。

△ 「すなわち」ができていれば部分点△1点。

○ c 「ここをもって」は「ここをもって」も可。

○ d 「よりて」は「よって」「よつて」も可。

○採点例

b しからばすなわち…1点

b これすなわち…1点

d これをもって…0点

問二 5点

A ○1点

B ○2点

C ○2点

(解答)

てんかに

おうたら

しむ

「採点のポイント」

A 「に」がないもの×0点。

B 歴史的仮名遣いで「おう」を「わう」とするもの減点1点。

C 「てんかに おう と なら しむ」は「しむ」に2点。

▲漢字を混ぜているもの、一か所減点1点

問三 6点

(解答) 二

問四 5点＋8点＝13点

(i) 5点

(A)

B 0点

A 3点

(解答例)

きつと

今の世の聖人に

笑われるだろう。(5点)

「採点のポイント」

A 「きつと」笑われるだろう」(3点)

○ 「きつと」は無くて可○。「必ず」のままでも可○。

✖ 「笑い者になる」は✖。

○ 「笑われるにちがいない」は○。

○ 「笑い者にされる」は○。

B 「今の聖人に」(2点)

○ 「今の世の聖人」は「新しい時代の聖人」など可○。

✖ 「新しい聖人」は✖

(ii) 8点

A 0点

B 0点

(解答例)

古代の聖人たちの功績は、

たとえすばらしいものであっても、

C 0点

D 0点

現代の事情には合わないものである」ことを

理解していないから。(8点)

「採点のポイント」

A 「功績」は「業績」「成果」「やり方」「考え」「思想」など可。

B 「画期的なものであっても」「昔は尊敬されていた行いであっても」「かつては偉大な行いであっても」など可。

C 「時代錯誤」「時代遅れ」など可。

✖ 笑われる原因・理由を答えずに、真の聖人の在り方を述べているものは✖0点。

問五 5点

(解答) 八

A ○ 3点

(解答例) 古代の聖人の行いは なんでもよいものだとはいえず、

B ○ 3点

「一定不変の基準などにも 従わない。」

C ○ 3点

今日の事情を考慮し、それに応じて対策をたてるべきである。 (9点)

「採点のポイント」

○ **全体の内容に誤りがあっても、部分的に意味の通るところに加点をする。**

A 「古代の聖人の行いは なんでもよいものだとはいえず」(3点)

△ 「古代の聖人の行い」を単に「昔のものごと」とするものは△2点。

△ 「昔良いとされていたことを真似せず」などは△2点。

○ 「なんでも」「すべて」がない場合も可○とする。

B 「一定不変の基準などにも 従わない」(3点)

× 「基準に則って」は×0点

○ 「いつも同じ基準に沿って物事は行わない」「常に昔の考え方や思想にこりかたまるのではなく」など。

C 「今日の事情を考慮し、それに応じて対策をたてるべきである」(3点)

○ 「考慮」は、「論じて」として可○。

問七 1点×4＝4点

(解答) ① ロ ② ニ ③ ホ ④ イ